

「特別の教科 道徳」（道徳科）に向けてⅣ

考え，議論する道徳の授業と評価

小学校では平成30年度から，中学校では平成31年度から，「特別の教科 道徳」（道徳科）が全面実施となります。

道徳科において，考え，議論する道徳への転換を図っていくためには，指導の意図を明確にした授業が求められます。

この指導の意図を明確にした授業が，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る評価にもつながります。

道徳科の目標にある，よりよく生きる基盤となる道徳性を児童生徒に養うために，日々の授業実践を積み重ね，「道徳の授業が楽しみ」と感じる児童生徒が増えるとともに，先生方にも道徳科の楽しさを感じていただくことを願っています。

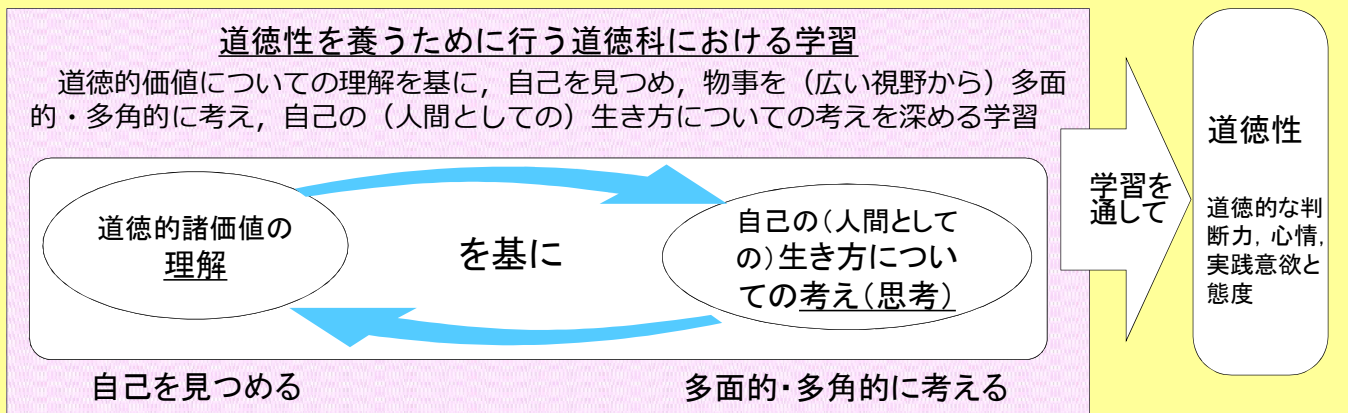
1 道徳科の目標について確認しましょう。

道徳の授業と評価について考えるに当たり，道徳科の目標を理解し，その目標を踏まえた授業の実践をすることが大切です。



【道徳科の目標】

（前略），よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（中学校：広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の生き方（中学校：人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。（学習指導要領解説 特別の教科 道徳編から）



◆ 道徳的諸価値について理解する

◆ 自己を見つめる

◆ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

◆ 自己の（人間としての）生き方について考えを深める

◆ 道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を育てる

## 2 道徳の授業はどのようにつくっていけばよいでしょうか。



児童生徒が考え、議論する道徳の授業を展開していくためには、教師が道徳科の目標を踏まえ、「明確な指導の意図」をもつことが重要です。教師が「明確な指導の意図」をもつことによって、道徳の授業で期待する児童生徒の学びの姿が具体的になるので、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るための視点（評価の視点）にもなります。

指導の  
意図

道徳的価値

学習指導要領を基に、ねらいとする道徳的価値及び指導内容についての教師の考え方を明確にします。

児童生徒の  
実態

道徳的価値に基づいて、これまで各教科等でどのような指導を行ってきたのか、その結果、児童生徒にどのようなよさや課題があるのかを把握して、児童生徒に考えさせるべきことを明確にします。

教材の活用

道徳的価値、児童生徒の実態に基づいて、教材（資料）をどのように活用して、どのような学習を展開するのかを明確にします。

### ◆ 例：小学校第2学年：年間指導計画に基づいた道徳の授業



友達と活動して楽しかったことや、友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていく必要がある。

道徳的価値

各教科等、様々な場面において、この視点で友情に関わる指導を行う。



その結果、児童は

よさ

友達と仲よく遊んだり、生活したりすることはできている。

課題

友達の立場に立って考え、助け合うことは、まだ難しい。

実態から求められること

「仲よくする」から、「仲よくし、助け合う」ということへ意欲が向くように指導していく必要がある。

児童の実態

道徳的価値、児童の実態から、教材をどのように活用するか。





「二わのことり」 内容項目：B 友情，信頼  
 文部省「小学校道徳の指導資料 第2集」  
 友達同士助け合うことよさを自分との関わりで考えさせるために，やまがらの涙を見たときのみそさざいの思いを考えさせたい。

教材の活用

指導方法の工夫

発問構成，役割演技，ワークシート 等



友達同士の助け合いのよさを感じたときの気持ちを想像させたい。



【中心的な発問】

涙をぽろっとこぼしたやまがらを見て，みそさざいはどんなことを考えていたのだろう。

【道徳の授業づくりの流れ（例）】

- 1 ねらいを検討する。（指導の意図を明確する。）
- 2 教材を読む。
- 3 中心となる場面を考える。
- 4 中心的な発問を考える。
- 5 中心的な発問を生かすための前後の発問を考える。



### 3 道徳科は，どのような視点で評価すればよいでしょうか。

道徳科の評価については，道徳科の目標に基づき，道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子を，以下の2つの視点で見取ることが例として示されています。



【視点1】 道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り，自らの生活や考えを見直している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え，考えようとしている。

【視点2】 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え，考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。



指導する教師一人一人が，質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにするという道徳科の評価の趣旨を理解した上で，学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められています。

## 4 実践例で見る道徳科の評価



本実践例は、A中学校において生徒Aに着目した3時間分の道徳科の記録です。

第3回道徳科 教材名「大会を前にして」 内容項目：C 家族愛，家庭生活の充実 出典：正進社

【ねらい】 自己実現を図りつつも，社会生活の基盤である家族を敬愛し，家族の絆を大切に思う心を育てる。

### 【主な発問（※評価の視点）】

- おばあちゃんの危篤を聞き，すぐにでも駆けつけたい気持ちと試合を休むわけにはいかない気持ちを考える。
  - 決勝戦に参加すべきか，おばあちゃんのところに行くべきか議論する。
- ※ 登場人物の気持ちを自分に重ねて考え，自分自身との関わりで道徳的価値の理解を深めているか。

### 【見取るための工夫】

- ワークシート記入  
Aへの意図的指名  
記述内容
- グループ活動  
取組の態度  
対話（発言）の内容

### 【生徒Aの学習状況】

- 「来年こそ勝ちたい」  
自分の意見を述べる姿が見られた。
- 「僕なら大会に参加するかな」  
自分の考えを伝え，他者の考えにうなづく姿が見られた。

第11回道徳科 教材名「帽子はどこに消えた」 内容項目：C よりよい学校生活，集団生活の充実 出典：正進社

【ねらい】 自己実現を図りつつも，社会生活の基盤である家族を敬愛し，家族の絆を大切に思う心を育てる。

### 【主な発問（※評価の視点）】

- 集団生活における係の責任を果たすためには，どのような姿勢をとることが大切かを考える。
- ※ 主人公や級友の思い，気持ちを自分に置き換えて考え，話し合う中で様々な見方・考え方をもとに，問題を解決しようとしているか。



### 【見取るための工夫】

- ワークシート記入  
記述内容
- グループ活動  
取組の態度  
対話（発言）の内容

### 【生徒Aの学習状況】

- A 「係が責任をしっかりと果たせばいいことだ」  
友人「周りの協力も必要だと思う」  
A 「そうかあ，それは大事なことだね」

第19回道徳科 教材名「どうしよう，おれ」 内容項目：C 遵法精神，公德心 出典：正進社

【ねらい】 法やきまりの意義を理解し，それを遵守しようとする態度を育てる。

### 【主な発問（※評価の視点）】

- 万引きしたかもしれないゲームソフトを友人からもらってしまった主人公はどうすべきかを考える。
- ※ 主人公の立場に立って考え，登場人物の心情を様々な視点から捉え，問題を解決しようとしているか。

### 【見取るための工夫】

- グループ活動  
取組の態度  
対話（発言）の内容

### 【生徒Aの学習状況】

- A 「友人にソフトを返す」  
友人「親に相談する」  
友人「友人に注意する」  
A 「注意は難しいかな」  
友人「でも，万引きは犯罪だよ」  
A 「そうだね，きまりは守るように言おう」



本実践例は，道徳科の授業の3時間分を掲載していますが，この他の道徳科の授業においても生徒Aの評価を実施していることに留意してください。

### ◆ 本実践例に基づいた評価に生かす記述例



登場人物のどんな行動が問題なのか，どうすればいいのか，話し合いを通して解決しようとしていました。特に，給食当番の帽子が紛失したことで生じた学級の責任問題を題材とした授業では，問題を解決しようとペアやグループ学習を通して，多面的・多角的に考えていました。



登場人物の心情を自分に置き換えて考え，具体的にイメージして理解しようとしていました。特に，主人公の葛藤「大会へ参加すべきか，危篤である祖母のもとに駆けつけるべきか」を題材にした授業では，登場人物の状況を踏まえ，自分ならどうするかを考えながら学習に取り組み，これからの自分の生き方について考えを深めていました。